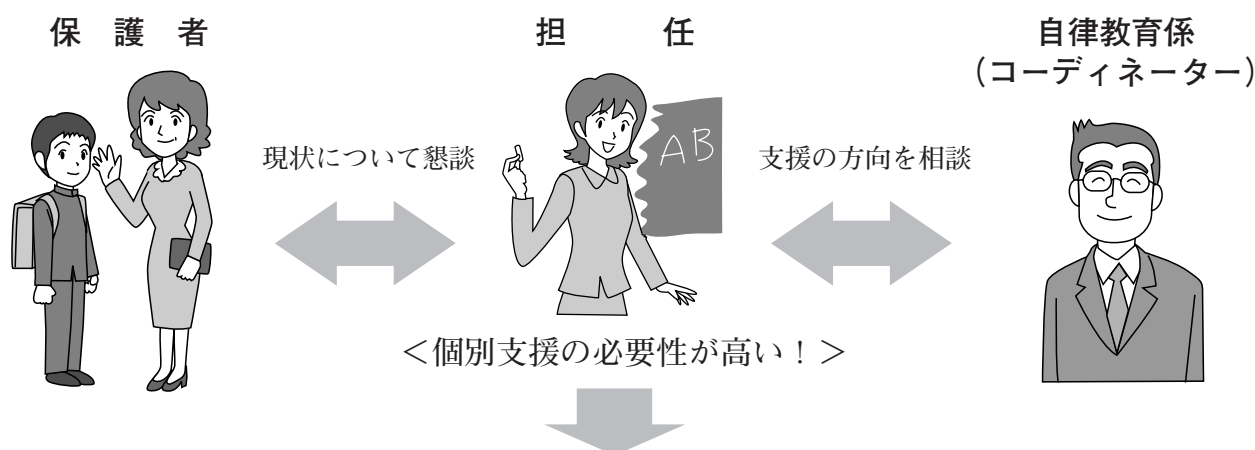


## 事例 3 友だちとのトラブルが増えたたいちさん (中学校2年)

LD (学習障害)

たいちさんはイラストが得意で、ゲームキャラクターをカードに精緻にかくのが好きです。しかし、中学校の教科学習に苦戦したり、対人関係がうまくいかなかったりしてイライラが募り、友だちとのトラブルが増えてきました。

### 【担任の発信から支援体制をつくる】



実態把握と考察  
個別の指導計画

校内委員会 (就学指導委員会)

指導計画の修正  
保護者への説明

<計画に沿って個別支援>

<個別支援に対する評価>

通常の学級における支援

- 認知特性に沿った指導
- 級友との人間関係の調整

連携

情緒障害自律学級における支援

- 個別指導 (国語, 数学, 英語等)
- ソーシャル・スキル・トレーニング

社会性 (人とのかかわり) を高めるための学習です。実際の学習については、「授業の工夫」を参照。

### <支援のポイント>

- 1 通常の学級での指導と情緒障害自律学級での個別支援を連携して行う支援体制
- 2 情緒障害自律学級におけるカウンセリングとソーシャル・スキル・トレーニング
- 3 実態把握と考察に基づいた学習支援の工夫 (視覚的教材の利用など)

たいちさんは友だちとのトラブルが減り、落ち着いて生活できるようになってきました。また、トラブルがあっても情緒障害自律学級へ自分から出掛け、気持ちを落ち着けてから教室へ戻るようになりました。抵抗があった教科学習にも、時間を決めて取り組むようになっていきました。

## ●友だちとのトラブルが増えたたいちさん

たいちさんは、小学校時代「ことばの教室」に通っていました。中学入学後は、保護者の願いから通常の学級に在籍し学習していましたが、思いが伝わりにくかったり休み時間からかきの対象になつたりしたことから、友だちとのトラブルが増えてきました。担任は周りの生徒に理解を求めつつ、たいちさんに個別にかかわってきました。授業内容も分からないことがあり、面白く感じられません。授業中、好きなゲームキャラクターのイラストをかいて過ごすことが多くなってきました。

## ●担任の発信による、保護者、自律教育係との連携

中学2年生になると、たいちさんから友だちとのトラブルについての訴えが多くなりました。学級担任は自律教育係と相談し保護者に現状を伝えました。その結果、学習面・情緒面にかかわる個別支援の必要性を理解していただき、情緒障害自律学級で体験的に学習してみることにになりました。

たいちさんとの面接では、友だちへの不満が攻撃的な言葉とともに語られ、カウンセリングやソーシャル・スキル・トレーニングの必要性が感じられました。そこで、国語、数学、英語の時間は、情緒障害自律学級で個別に学習を進めるようにしました。たいちさんも保護者も体験学習から、それを希望しました。

## ●情緒障害自律学級での支援を通常の学級での支援へ

ストレス軽減のために1時間は得意な活動を位置付けた上で、次の支援を行いました。

- WISC-Ⅲの結果、視覚的な情報処理が得意なことが分かったので、視覚的教材（イラストなど）を利用して学習を個別に行いました。例えば、英単語の学習では、フラッシュカードの表に英単語、裏にその意味でなくイラストをかいてセットで覚えるようにしました。フラッシュカードは、学習中の注意集中力を高めることにも役立ちました。
- 情緒障害自律学級の学習に慣れてきてからはグループワークにも参加し、人との付き合い方を身に付ける取り組みも始めました。また、初期段階ではカウンセリングを行いました。
- 通常の学級の授業でも視覚的な教材を利用するなどの配慮をしました。

## ●落ち着いた学校生活を送れるようになったたいちさん

たいちさんは級友について攻撃的な言葉で語ることが少なくなり、比較的落ち着いた学校生活を送ることができるようになりました。また、こうした一連の支援の連携を通して保護者の意識が変化し、たいちさんの進路について頻繁に相談に來たり授業の様子を参観したりするようになりました。

保護者の意見を取り入れ、支援計画を評価・修正しながら、将来に向けた支援を進めていきたいと思ひます。

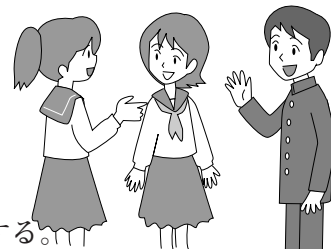


英語のフラッシュカード



<対処法・表現法の提案>

- (1) 深呼吸 (3回) してみる。
- (2) 情緒障害自律学級に避難して気持ちを鎮める。
  - ① 個別スペースで気持ちが鎮まるまで時間を過ごす。
  - ② 事実やその時の感情について情緒障害自律学級担任と整理する。
- (3) 担任は「怒り」を鎮められたことを褒め、具体的対処法・表現法を一緒に考える。



たいちさんに上の方法を提案し、本人も了承しました。カウンセリングや情緒障害自律学級での授業でトラブルは減りました。学級で「怒り」を感じた時には、情緒障害自律学級に来て、落ち着いてから教室に戻るようになっています。

**2** 友だちとよりよくかかわる経験を積む —授業の工夫 その2—

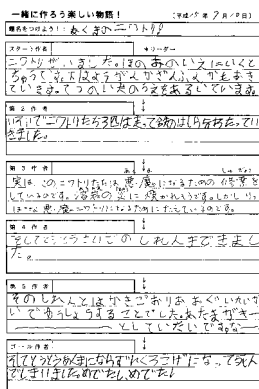
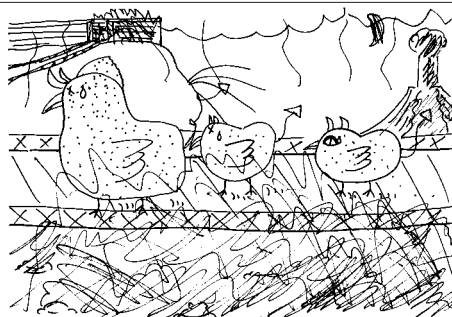
国語の授業に小グループ (2人~4人) で絵画や物語を創作する活動を行いました。最初は教師と2人で、その後グループで行いました。ルールを設定して友だちとかかわり、友だちの表現を受け入れ自分も表現するという経験を積みます。

<授業の流れ>

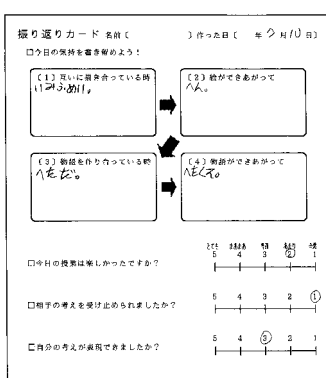
- (1) インストラクション  
やり方・ルールの説明
- (2) エクササイズ  
リーダーが1本の線、あるいは一つの形をかき、それをモチーフに交代で絵をかいていく。  
出来上がった絵を基にイメージし、交代で物語をつくっていく。
- (3) シェアリング  
「振り返りカード」で振り返る。  
\*ここまでを1時間の授業で行う。  
\*出来上がった物語を利用して漢字、文の成り立ち、作文の書き方などの学習を行って完成させる。

資料3 共同絵画

それぞれが使用する油性ペンの色を変え、かかわりの様子を見る。



資料4 共同物語  
絵画のイメージに物語をつくる。



資料5 振り返りシート  
自分の考えは表現できた。

<これらの実践は、次の文献を参考にした> 河村茂雄編著「ワークシートによる教室復帰エクササイズ」(図書文化社)  
本田恵子著「キレやすい子の理解と対応 学校でのアンガーマネジメント・プログラム」(ほんの森出版)